

## ナポレオンのエジプト遠征に よって生まれた書物の話

奥 正敬

### ■はじめに

今年フランス史の中で皇帝にまでのぼりつめた人物ナポレオン・ボナパルト (Napoléon Bonaparte, 1769-1821) の生誕250年にあたることから、彼が行ったエジプト遠征に着目して、これに関連する資料について振り返ってみたいと思います。

ナポレオンはエジプトでの戦闘では実質的な敗北を喫しましたが、帯同した学術調査団が素晴らしい成果をあげます。ここでは、彼が公刊を命じた『エジプト誌』と本書から広がった研究成果についてご紹介いたします。

なお、本学図書館は今秋、彼の生誕250年を記念した稀覯書展示会「ナポレオン、偉大なるエジプト文明に挑戦する」を開催し、以下の資料を中心にして展示する予定です。こうしたことから、僭越ですがこの拙文をもって「展示会へのいざない」とさせていただきます。

### ■ナポレオン、24歳で将軍になる

18世紀の中葉以降ヨーロッパでは、イギリスで産業革命が進みフランスでは市民革命が起こるなど、確実に新しい時代の息吹が感じられていました。しかし、武力を行使して他国の領土を奪い取ることなどは、一向に顧みて反省しようとしなかった時代でもありました。

1769年8月にコルシカ島で生まれたナポレオンは、陸軍幼年学校と士官学校を卒業して、任官後の1792年8月、彼が23歳の時にフランス革命で王制が崩壊するのを目の当たりにしていました。この革命で多くの将官が亡命して減少する中、ジャコバン派の政府軍に従軍して戦ったトゥーロン攻防戦では、王党派とこれを支援するイギリス軍に勝利します。彼はここでの軍功が認められて若干24歳で准将に昇進しました。その後、反政府勢力との交際を問われて獄中生活も体験しますが、やがて総裁政府の信認のもとに、折から起こったクーデタを鎮圧して更なる信頼を勝ち得ます。1796年3月になると、彼

はマリー＝ジョゼフィーヌと結婚しますが、新婚生活もつかの間、第1次イタリア戦役の指揮を命じられ、オーストリア軍とトリノのピエモンテ軍を破って翌1797年12月に凱旋しました。

### ■エジプトへ遠征する

第1次イタリア戦役で勝利したナポレオンは、1798年1月イギリス侵攻作戦軍司令官に就任して、イギリス本土への上陸計画を立案しますが、制海権をイギリスに握られている現状から諦めざるを得ませんでした。これに代わり、イギリスが18世紀半ばから着手して、同国の大きな財源になっていたインド経営に打撃を与えるための基地確保を求め、エジプトへ遠征することが認められます。そして1798年5月、ナポレオンは自ら約4万名<sup>(1)</sup>の兵力を率いてトゥーロン港を出港しますが、紀元前330年の頃のアレクサンダー大王の進軍に倣い、この遠征には約180名ともいわれる考古学者や科学者、技術者、画家からなる学術調査団を同行させます。

この頃ヨーロッパではエジプトとその文明については、古文書などは残っているものの、アレクサンダー大王に支配された時期があったことや、ナポレオンの遠征決定時はオスマントルコの属州となっていたこと以外は余り知られていないのが現状でした。このようなことから、研究界では新たな調査が望まれており、これに着手しようとしたのがナポレオンでした。

### ■イギリス軍に敗れて

ナポレオンの陣頭指揮のもとアフリカに渡ったフランス軍は、たちまちのうちにエジプトのアレクサンドリアを占領し、ピラミッドの戦いでオスマン帝国のマムルーク軍を撃破してカイロを陥落させました。しかし、アブキール湾でフランス海軍がネルソン提督の率いるイギリス海軍に敗れ、陸上のフランス軍は海路を絶たれます。これに対応してナポレオンはシリアに転戦しますが、ナイル川まで押し戻されてしまい